

令和2年度 東久留米市立 第六小学校

学校評価報告書

<p>学校教育目標</p> <p>○考える子 ○助け合う子 ○元気な子</p>	<p>教育ビジョン</p> <p>【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】</p>	<p>子供の幸せを育む学校～今を輝き、明日の笑顔を創る～</p> <p>人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供</p> <p>人間味あふれる教職員～感性を磨く～</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p> <p>【成果】◇落ち着いた温かい支持的風土の学年・学級集団の形成 ◇児童の基本的な学習習慣・学習規律、規範意識の定着 ◇よりよい学校生活を目指して児童が主体的に行動しようとする意識の向上 ◇地域の人材や環境を生かした体験的活動の推進 ◇外国語活動の授業研究成果を生かした授業</p> <p>【課題】◇基礎学力の定着 ◇教科横断的な学習指導 ◇特別支援教室との連携による個に応じた指導の推進 ◇オリンピック・パラリンピック教育の推進 ◇効果的な組織運営</p>		

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和4年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	市教育委員会人権行動指針に基づき、自他を大切に。差別や偏見を許さない学校づくり	全教育活動を通して、互いのよさや立場を尊重し合える心が育つよう努め、集団での自分の立場と責任を自覚し、互いに協力して行動しようとする態度を育てる。	・学校全体における言語環境の整備 ・学級活動などの実践的活動 ・学校行事等の学年の枠を超えた交流 ・人権教育の研修等とおした、教職員の人権感覚の見直し	「学校が楽しい」「暴力や相手を傷つけることはしていない」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.6	A 3.6	A 3.6	・子供が「良い」と感じていることなら、それが成果なのではないか。 ・子供たちが楽しく学校生活を過ごせていることが一番ありがたい。	・学校全体における言語環境の整備をする。 ・学校行事等の学年の枠を超えた交流を実施する。 ・相手を尊重する言葉遣いや、暴力・暴言を許さない指導の徹底を図る。 ・人権教育の研修等を通じた、教職員の人権感覚の見直しを図る。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	児童が互いに認め合い、児童と教師が信頼し合う豊かな人間関係を育み、規範意識や思いやりの心を育てる	道徳科授業の充実、全教職員の共通理解のもと、「六小6つの『あ』」の指導を徹底し、基本的習慣や規範意識を育てる	・校内研をととした道徳科授業の充実 ・道徳科の全体、年間計画、別業の見直し ・「六小6つの『あ』」の指導の徹底	「相手の気持ちを考え、助け合って生活している」「六小6つの『あ』を守っている」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.6	A 3.5	A 3.5	・人とのつながりを分かりやすく伝えることが難しい時代なので、一緒に考えていきたい。	・道徳科の授業を要し、学校の全教育活動を通して、児童の発達段階に応じた道徳教育を行う。 ・他教科との関連を図り、各教科等の授業でもその特性に応じ、道徳の内容に関して適切な指導を行う。 ・「六小6つの『あ』」の指導を行い、全校での徹底を図る。 ・入学当初から生活指導の月目標等と関連させながら繰り返し指導を行い、基本的な生活習慣と規範意識を育てる。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめ対策防止委員会によるいじめの実態把握と早期発見・対応を組織的に、いじめ防止のため自ら行動できる児童を育てる	自尊感情や自己肯定感を高められる、児童一人一人が認められる、生かされる場活動の場、機会の設定、互いのよさを認め合う学級づくりを行う	・児童一人一人が認められる学級づくり ・児童アンケートの実施 ・児童会を中心にいじめ防止活動の展開 ・SCによる5年全員面接 ・教職員の週1回の情報共有	「学校はいじめがなく安心できる」「先生は、良いところや頑張ったところを認めてくれる」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.4	A 3.6	B 3.4	・コロナの中で先生方の対応はとて大変だと思う。学校だけでなく家庭内での問題が出てきているので、子供たちのちょっとした変化を見ていただけたらありがたい。 ・不登校者のフォローを積極的に取り組む必要がある。	・児童一人一人が認められ生かされる活動の場や機会を設け、互いのよさを認め合う学級、集団をつくることで、自尊感情や自己肯定感を高める。 ・道徳の時間やふれあい月間を通して、いじめや暴力、差別や偏見を許さない心を育てる。 ・児童会を中心にいじめ防止活動を展開する。 ・教職員の週1回の情報共有内いじめ対策防止委員会によるいじめの早期発見と組織的対応を図る。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	学習活動や授業展開を工夫し、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着を図る	「分かる、できる、楽しい授業、使える、つくる能力を育む授業」の実施	・授業改善推進プランの活用 ・算数習熟度別指導の充実 ・東京ペーシックドリルの活用 ・朝学習の充実 ・放課後タイムの実施	「すすんで考えたり発表したりできた」「友達と話したり、学び合ったりすることができた」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.3	A 3.7	A 3.5	・授業改善推進プランに基づいて指導方法の工夫・改善を図る ・週3回の朝15分間を国語科、算数科の基礎的基本的な学習の定着を図る。(年間) ・朝学習では、学習の土台となる「集中力」「粘り強さ」「達成感」を身に付ける。 ・毎月2回の「放課後タイム」を実施し、学級担任が中心となって個に応じた基礎的・基本的な学力の定着を図り、低位層の児童の学力と学習意欲の向上を図る。	
5	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	学習活動や授業展開を工夫し、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力(思考力・判断力・表現力)を育成する。	「学習者の基本は学習者の学習意欲」を授業の基盤と意識し、主体的・対話的で深い学びある授業改善を図る	・ねらいを明確にした授業の実施 ・授業の流れが分かる板書づくり ・自己評価、相互評価の工夫	「勉強がわかる」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.6	A 3.8	A 3.8	・児童にとって「分かる授業、できる授業、楽しい授業」、また、基礎的な知識や技能を活用した「使える・つくる」能力を育む授業を構築する。 ・各教科等で言語活動を充実させ、自分の考えをもち、双方向性の話し合い、学び合い活動のある授業を構築する。	
6	II 学力向上	確かな学力の育成	家庭学習の積極的な展開	個々の児童の興味や関心に基づく自主的な学習を奨励して学習意欲を高め、家庭での学習習慣を身に付けさせる	学年の発達段階に合った課題を与え、自主学習を奨励し家庭での学習習慣を育てる	・学年×10+10分の家庭学習の実施 ・「六小家庭学習の手引き」の活用	「学年×10+10分の家庭学習(宿題、自主学習)に取り組んだ」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.2	B 3.4	B 3.4	・全学年において「六小 自主学習の手引き」を活用した家庭学習習慣を確立し、基礎的基本的な学力の向上だけでなく、主体的な学習への取組姿勢、自ら学ぶ意欲等の生涯学習につなげていく。 ・廊下に自学ノートコーナーを設け、モデルノートを掲示することで価値付け、賞賛、意欲の向上につなげる。	
7	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	問題を主体的に取り組む態度、ICT機器を活用してよりよい社会を築いていこうとする態度の育成を図るとともに、教科学習の学びの定着を図る	論理的な思考の育成を図るとともに、個に応じた学習と学習の定着をはかる授業を実施する	・ICT機器を活用した授業の実施 ・アンブレグドプログラミング学習の実施 ・プログラミング教育研修の実施	「問題を解決するために、自分の考えをもつことができた」「自分の考えを筋道立てて、説明することができた」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	B 3.4	B 3.4	B 3.3	・教員によって、教育内容のバラつきが出ないようにする必要がある。 ・先生方のライフワーク・バランス改善に向けて積極的にICTツールの活用をお願いしたい。	・プログラミング教育全体計画、年間指導計画を作成し、6年間を通して問題を主体的に取り組む態度、ICT機器を活用してよりよい社会を築いていこうとする態度の育成を図る。 ・特に、朝学習と数理数英教科を中心に一人一台のタブレット端末を活用する。 ・ICTを含む様々なツールを駆使して、論理的な思考や探究のプロセスの育成を図るとともに、個に応じた学習と学習の定着を図る授業を実施する。
8	III 教育環境の整備	体験的な活動	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域の人的、物的資源を活用した体験活動の充実を図り、地域社会の一員としての自覚と地域に対する愛情を育てる	各教科等の指導計画に基づき、地域人材や地域の特色を生かした体験活動を取り入れた効果的な授業を実施する	・地域資源を生かした授業の実施(各学年1回)	「学校は、地域の人材や特色を生かした活動を行っている」と答えた保護者 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満				・地域対応を考えているので、オープンに相談してほしい。 ・今年度は、仕方がない。	・各学年で地域の自然や施設、人材等の地域資源を活用、協働した学習を行う。 ・「環境・伝統文化・福祉・国際理解・キャリア」に関連させた体験的活動を行う。 ・授業公開や学校だより等で活動状況を伝えるとともに保護者にも参加、協力を求めて一層の理解を得られるようにする。 ※今年度は、実施した学年と実施しなかった学年があり、全体の評価はしない。
9	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	特別支援教育に対する理解を深め、個に応じた支援の充実、「共に生きる」仲間としての意識を育てる	特別支援校内委員会、生活指導部会を計画的に実施し、特別な支援を要する児童への個別支援の充実を図る	・UDの授業の実施 ・研修会の実施 ・校内委員会の充実 ・生活指導連絡会の充実 ・特別支援教室、通級、通常級教員、SC等の連携の充実	「個に応じた特別支援教育が行われている」と答えた保護者 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	A 3.7	B 3.4	B 3.4	・ずらずらん教室に通う児童も増えてきているように思う。個に応じた特別支援教育の充実をお願いしたい。	・特別支援教室、難聴・言語学級教員による理解啓発授業を教科等の指導計画内に位置づけ、実施し、6年間を通して、特別支援教育について学ぶ。 ・全ての学級において、学習指導では、分かりやすい板書、学習のルールの掲示、ICT活用等、児童一人一人の教育的ニーズに応じた配慮や支援を行い、安心して学べる学級をつくる。 ・教員同士の情報交換や授業支援を密に行って個々の児童のニーズに則した支援を充実させる。
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	4×4の取組	4×4の取組	オリンピック・パラリンピック教育を充実させるとともに、東京大会のレガシーを受け継いでいく意識を育てる	各教科や領域で4×4の取組を意識した活動を行い、スポーツ志向、障害者理解、日本人としての自覚等の「5つの資質」を養う	各教科をとおして、 ・日本の伝統文化に触れる ・自国や世界の人々の生活や文化についての理解を深める	「オリンピック・パラリンピックについて学んだ」と答えた児童 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	C 3.0	A 3.7	B 3.2	・今年度は仕方ないのかなと感じている。	・オリンピック・パラリンピック教育を推進し、自国や世界の人々の生活や文化についての理解を深め、互いの個性や多様性を認め合える人間の基礎を培う。 ・夏の競技観戦が一層充実した体験となるようにオリ・パラの精神やスポーツについて学習を進める。大会終了後も振り返りを通して大会のレガシーが継続されるように取り組む。
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	教職員自身が教育の不易と流行を踏まえて校務改善等に取組み、ライフ・ワーク・バランスの改善を図る	教職員自ら健康を管理し、校務改善等をおして、作り出した自分の時間を、感性を磨くことにつかい、教育活動に生かす	・1か月時間外在校等時間45時間以内 ・DCAPサイクルによる改善策の作成、引き継ぎによる効率化 ・好きなこと、得意なことを保持し、感性を磨く	1か月時間外在校等時間45時間以内 A:3.5以上 B:3.2以上 C:3.0以上 D:3.0未満	C 3.1	C 3.1	C 3.0	・先生方のご苦勞がなくなるよう願っている。 ・いつもご尽力ありがとうございます。	・会議の精選、時数の割り振りを工夫し、勤務時間内で教材研究等に当たることのできる時間をつくりだす。 ・校務支援システムの活用、カリキュラムマネジメントを作成し、効率化と省力化に取り組む。 ・時間講師やスクールサポートスタッフを活用し、勤務の負担軽減を図る。